

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成25年11月）	今回（平成26年2月）	
景況判断	回復している	<u>着実に回復している</u>	
観光	増加	<u>堅調に増加</u>	
個人消費	増加	<u>堅調に増加</u>	
雇用	改善	<u>着実に改善</u>	

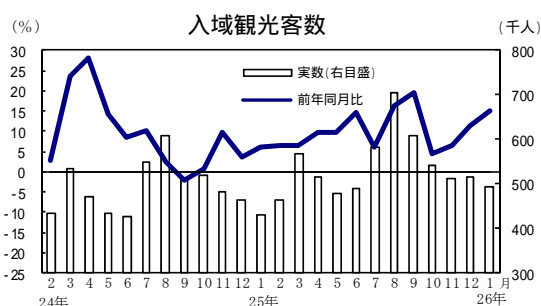
### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、10月は上旬の台風23号24号による航空便欠航に伴い、旅行キャンセルが相次いだことから、13か月ぶりに前年実績を下回ったが、11月は国内の景況感が上向き、旅行市場全体が活況なことにより、12月は民間企業のボーナス増に加え、年末年始の日並びが良かったことにより前年を上回った。平成26年1月は年末から年始にかけての航空便提供座席の増加に加え、下旬の旅行会社主催のイベントの誘客効果もあったことから、前年実績を上回った。

外国客については、10月は3連休中に大型クルーズ船が寄港したことから欧米人観光客が増加し、前年を上回った。冬期の旅行需要が高い韓国、旅行需要が安定している香港からの入込を中心に好調に推移したことから11月、12月は前年を上回った。平成26年1月は春節を迎えた台湾、香港、中国の主要方面からの旅行需要が高かったことから、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルともに前年同期を上回っている。



#### 入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

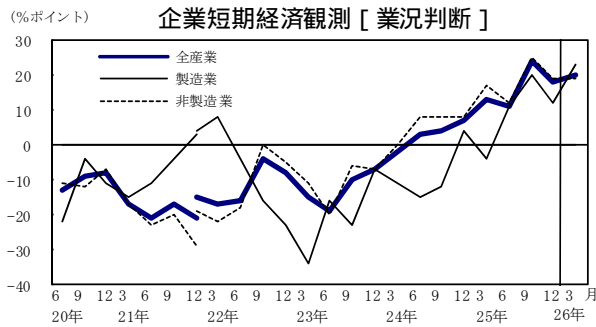
	25年4-6月	7-9月	10-12月	26年1月
入域観光客数	1,483	1,897	1,572	495
(前年比)	11.4	13.9	7.2	15.2
ホテル稼働率	69.7	84.3	70.4	-
(前年差)	5.4	8.4	3.7	-

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

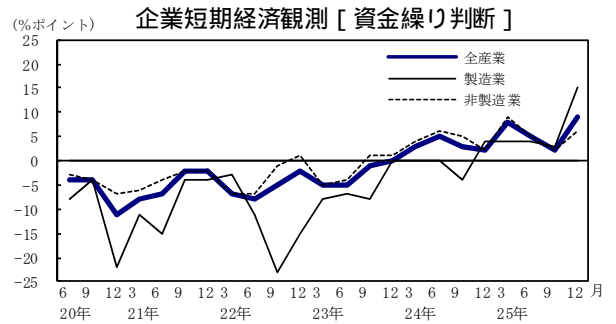
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

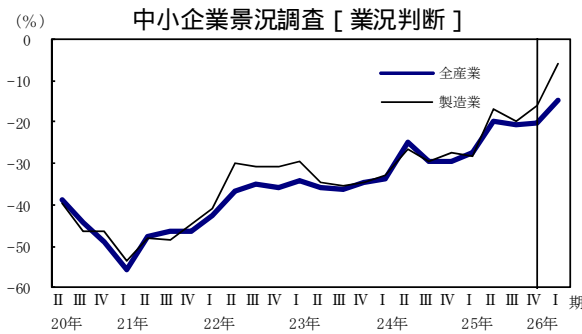
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。26年3月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。



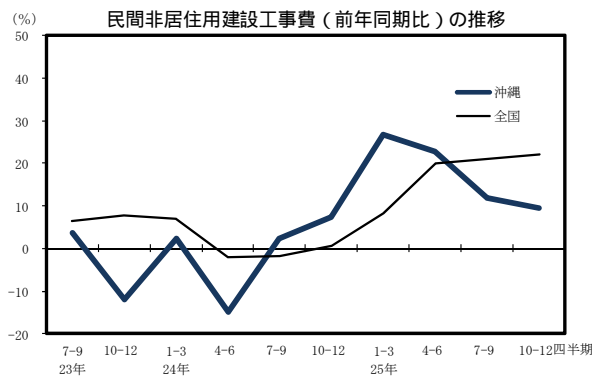
(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。26年I期は見通し。  
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]  
「観光土産商品としての売上増が目立つ(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度計画
全産業	19.7	50.5(15.2)
製造業	72.6	140.5(0.2)
非製造業	14.1	36.1(20.3)

(備考) ( ) は前回(9月)調査比修正率。

## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は堅調に増加している。

#### 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.3%減、11月は同0.3%減、12月は同1.9%増となった。

#### 百貨店販売額、スーパー売上高

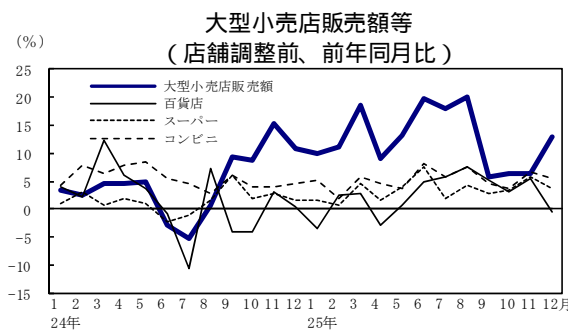
百貨店は、10月は物産展開催時期の変更や那覇大綱挽まつりの回遊効果等から、前年を上回った。11月は催事や会員向けセールで客足が伸長したこと等から、前年を上回った。12月はお歳暮ギフト需要などから食料品は増加したものの、衣料品が前年に比べセールが振るわなかったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、新規店舗の出店効果に加え、前年と比べ気温が低く推移したこと冬物商材が伸び、高級感のあるお歳暮ギフト需要が高まったこと等から、前年を上回った。

#### 景気ウォッチャー調査 (1月) [家計動向関連 (現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、50.0となり前月より2.0ポイント上昇した。

「年末年始の商品の販売量が例年よりも良かった (一般小売店[菓子])」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

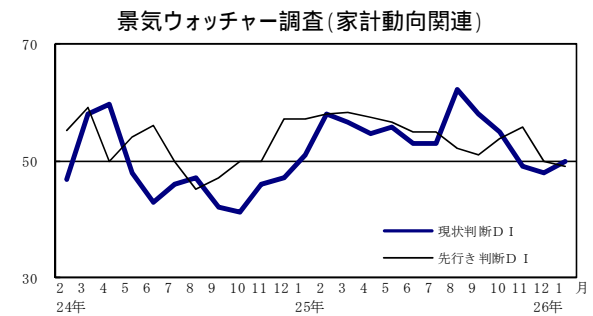
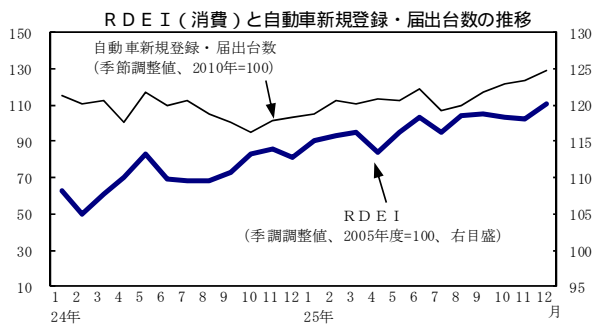


	25年10-12月	25年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.8	▲0.3	▲0.3	1.9
大型小売店(*2)	8.9	6.4	6.3	12.8
百貨店(*2)	2.4	3.1	5.5	▲0.4
スーパー(*2)	4.2	3.3	5.7	3.8
コンビニ(*2)	5.3	3.6	6.8	5.6
乗用車(*3)	24.1	25.0	19.7	27.3
(季節調整値)(*3)	12.0	3.3	1.4	5.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 大型小売店は経済産業省調べ (店舗調整前)。百貨店、スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ (百貨店以外は全店)。前年同期(月)比 (%)。

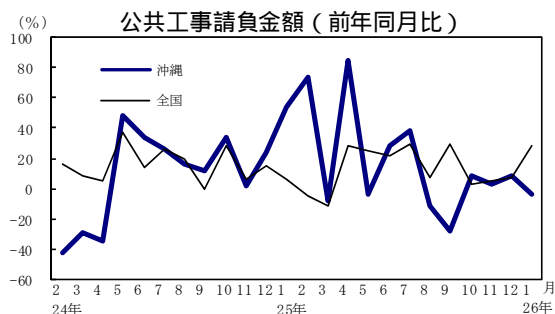
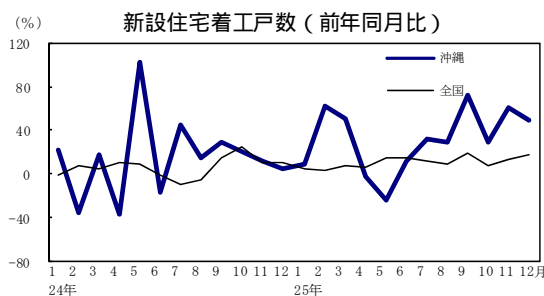
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%) )



### (2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

### (3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

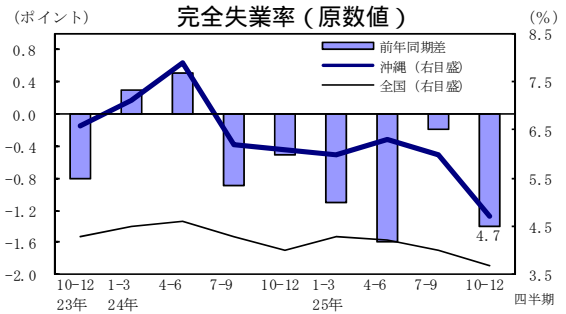
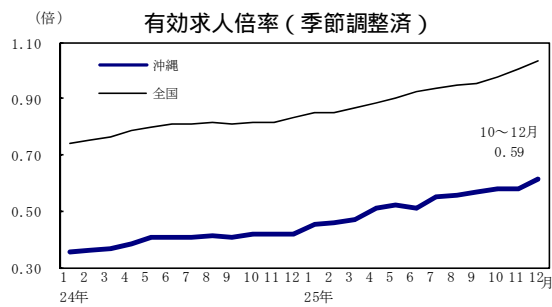


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

「年度末が近づいているにもかかわらず追加求人がある。理由は業務多忙による人員増員とのことである(学校[専門学校])」などの回答がみられた。

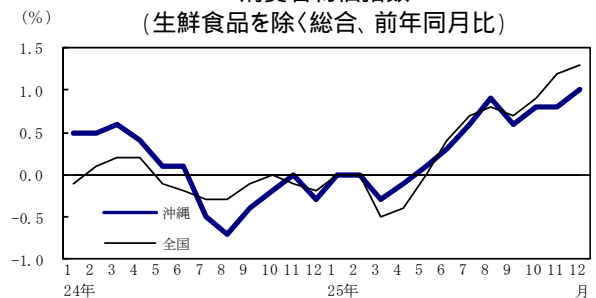
(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	26年1月
倒産件数	16	23	26	14	7
(前年比)	▲15.8	43.8	36.8	▲17.6	16.7
負債総額	219	52	26	87	15
(前年比)	449.6	186.2	▲1.5	275.2	▲92.8

#### 消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合、前年同月比)



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- 注文住宅の消費税増税前の駆け込み契約は9月で終わり、その反動減があった10月と比較すると、やや良くなっていると考え。来場客数は増加傾向で、消費税増税前に間に合う、3月の建売棟販売への商談も動いている(住宅販売会社)。

<先行き>

- 現状の予約状況から見込まれる2、3か月先の稼働率においては、前年同月実績を上回る見込みである。企業等の団体宿泊利用も含め、予約が動き始めてきている(観光型ホテル)。

景気ウォッチャー調査  
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

